

特 集

調査, マッピングそして環境整備 コウノトリ育む郷づくり ～与布土地域自治協議会かえるの郷部会の取り組みから～

* 藤本邦彦¹

White stork friendly revitalization-survey, mapping and environmental maintenance: activities by the Satoyama group of Yofudo Residents' Council

* Kunihiko Fujimoto¹

¹ Kaeru-no-sato Bukai (Action Group for Nature and Environment), Yofudo Regional Self-government Council, 360, Mizoguro, Santo-cho, Asago, Hyogo Pref., 669-5132 Japan

* E-mail: kunihiko@kscellar.com

はじめに

与布土(ようど)地域自治協議会は2007年に設立され、1)かえるの郷部会(自然・環境)、2)みのりの郷部会(農業)、3)はぐくみの郷部会(子育て)、4)ごくらくの郷部会(よふど温泉)、5)すみやすい郷部会(生活・安全・福祉)、6)つながりの郷部会(交流、地域行事など)の、地域住民で構成される6つの部会を構成して地域課題に取り組んでいる。

その中で、かえるの郷部会は、与布土の自然を調査・学習すること、地元地域住民自身が地域の自然環境を調べ、その魅力や価値、そして問題点について学ぶこと、さらに「与布土の自然環境を活かした地域活性化」の取

り組みを検討、実践することを目的に活動を展開している。主な活動は、1)川の生き物と環境の調査、2)水田や池、水場の生き物と環境の調査、3)山の自然環境の調査と整備、4)史跡の発掘と整備、の4つに分類される。その中で、「山の自然環境」は与布土地域の自然環境、植物環境を調査、勉強する活動であり、「史跡の発掘と整備」は地域のお年寄りのアドバイスを頂きながらの活動で、戦国時代の山城「衣笠城跡」の調査や奈良時代創建とされる「大林寺」の調査、山中に埋もれた参道の復元作業などを行うもので、いずれも大変面白く、すばらしい活動であるが、ここでは本稿の主題に関係が深い「川の生き物と環境の調査」および「水田や池、水場の生き物と環境の調査」の紹介にとどめる。

かえるの郷部会で行っている様々な活動

かえるの郷部会では、与布土地域の「川の生き物と環境」を調査する活動を行っている。その中には、与布土地域の子どもたちの自然体験事業や、地域の子どもたちとの観察会が含まれる(図1)。いずれも、観察会に参加する子どもたちが「調査員」として活躍し、部会から見れば、これらの機会を活用した部会自身の生き物調査という側面を持っている。



図1. 子どもたちが参加した観察会の様子。川の中に入ったの生物採集(左)。ドジョウとシマドジョウを比較しながら観察(右)。

¹ 与布土地域自治協議会かえるの郷部会
669-5132 兵庫県朝来市山東町溝黒360
* E-mail: kunihiko@kscellar.com



図2. 与布土川支流、源流における調査の様子 (左). 調査で確認されたヒダサンショウウオの幼生 (右).

これらの観察会を通じて、与布土地域の主な生き物が明らかになってきた。河川(与布土川)においては、カワムツ、カマツカ、ドンコ、タカハヤ、ドジョウ、シマドジョウ、サワガニ、ヌマエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、イシガメ、アカハライモリ、オオサンショウウオなどであり、上流域においては、カワムツ、タカハヤ、カジカ、ナガレホトケドジョウ、サワガニ、イシガメ、アカハライモリ、オオサンショウウオなどである。山の中の沢(与布土川支流・源流)の調査も重要な活動のひとつである。地域の老人の方の情報をもとに現地を案内して頂き、生き物調査を行った結果、ヒダサンショウウオの幼生も確認された(図2)。

また、毎年10月下旬に朝来市山東町内(与布土地域を含む)の河川などを調査し、生息する生き物を11月はじめに開催される「山東文化祭」で水槽を展示する「ふるさと水族館」(2005年秋から行われ2013年で10回目)の取り組みも行われている(図3)。この取り組みの主権者である「山東の自然に親しむ会」(兵庫県立人と自然の博物館への協力グループ)には、かえるの郷部会のメンバーも参加しており、部会の活動の一つとして協力している。

朝来市教育委員会主催、日本ハンザキ研究所の協力による与布土川オオサンショウウオ観察会では、かえるの郷部会が事前調査やオオサンショウウオの捕獲作業など

準備全般を担当している(図4)。2011年に始まったこの観察会は2013年で3回目となった。観察会では、与布土川上流に生息するオオサンショウウオの個体識別と全長、重量の計測、健康状態などを調査している。結果から、与布土川のオオサンショウウオは比較的栄養状態が良いと思われ、そのことは与布土川の環境が優れていることを示している。また、かえるの郷部会の調査では、与布土川でオオサンショウウオの繁殖を毎年確認している。国指定の特別天然記念物で世界的にも大変貴重な生き物とされるオオサンショウウオが繁殖する与布土川は



図3. 「山東文化祭」で実施された企画「ふるさと水族館」の様子。



図4. 与布土川オオサンショウウオ観察会の様子。オオサンショウウオの形態や生態に関する説明(左)。調査のため捕獲された個体を観察する参加者(右)。

世界に誇ることのできる大変貴重な自然環境である。

生き物調査を行う一方で、「与布土の宝で遊ぶ」という活動も展開している。ここで言う宝とは地域の自然のことである。与布土地域自治協議会のプロジェクトチームである、与布土発掘プロジェクトが企画・主催した「与布土わくわくキャンプ」では、地域の子どもたちが地域の自然環境を体験し遊ぶ活動を実施した（図5）。

ところで、田んぼの生き物といえばカエルが代表的なものである。かえるの郷部会ではその名の通り「カエル」の生息調査も続けている。与布土地域では、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ヌマガエルの他に、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル、タゴ



図5. 「与布土わくわくキャンプ」で地域の自然に親しむ参加者。

ガエル、ヤマアカガエル、ニホンヒキガエルの9種の生息を確認している。生息数も多く、生息環境も豊富であり、まさに与布土地域は「カエルの郷」と言ってよいだろう。シュレーゲルアオガエルは、与布土地域の水田ほぼ全域で確認できる当地域ではごく一般的なカエルで、活動時期（繁殖時期）が他のカエルより早く、3月下旬から4月である。モリアオガエルは、シュレーゲルアオガエルより大きく、生息場所は限定されている。活動時期（繁殖時期）は5月下旬から7月である。池周辺の樹木の枝に産卵することで知られているが、与布土地域では水田の畦に産卵する姿がよく見られる（図6）。水田や用水路、池などの水場で見られるその他の主な生き物として、アカハライモリ、ドジョウ、サワガニ、アメリカザリガニ、マルタニシ、ヒメタニシなどがある。

かえるの郷部会は2013年より兵庫県立コウノトリの郷公園の指導のもと「こうのとりに育む郷づくり」をテーマに定め活動を始めた。4月に開催したコウノトリ勉強会を最初に、5月にはコウノトリの郷公園で生き物調査の講習会、6月には、与布土地域の水田の生き物調査（図7）、8月には、「わくわくキャンプ」で地域の子どもたちと生き物調査（与布土発掘プロジェクト）および畦の生き物調査（カエル、バッタなど）を実施した。11月には、コウノトリ放鳥事業及び生物調査の報告会が実施された。4月の勉強会と11月の報告会には、部会の構成員だけでなくコウノトリの郷公園、兵庫県、朝来市の担当者



図6. モリアオガエルの生息マップ（個体確認場所と産卵場所）。山際、谷間の水田で産卵する姿がよく見られる。



図7. 水田の生き物調査を実施している様子.

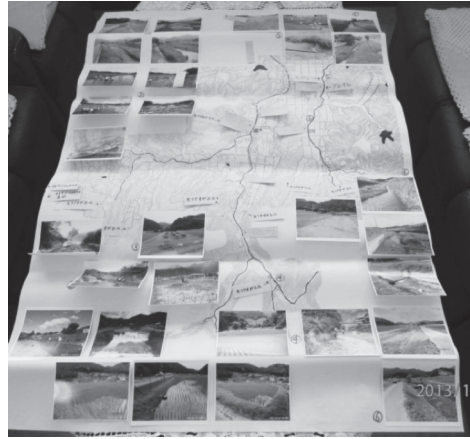


図8. 地域の全体像を視覚化するための与布土地域のマッピング作業.



図9. 与布土の水田マップ. 環境配慮型農法水田, 慣行農法水田, 畑作地, 休耕地, ビオトープ候補地が塗り分けられている.

なども参加した。また、6月から12月にかけて随時、湿地の整備作業を行った。

これらの活動を展開していく際の基本的な情報として、地域の全体像を視覚化するための与布土地域のマッピング（地図化）を行うことが重要と考え、実行している（図8，図9）。地図は主に、生物マップ（生き物たちの棲息地，分布），環境マップ（水田，畑，川，湿地，山など），景観マップ（環境の様子）といった要素で構成される。マッピング作業を通じ、与布土地域の環境の全体像を把握し、作成されたマップを活用し、環境整備を進める予定である。こうすることで、多様な生物が豊かに棲息する環境を創るための場所や方法の検討も円滑に進

むことが期待される。

おわりに

私たちは、かえるの郷部会の活動は、地元地域で生活する私たちにしか出来ない活動であり、地域住民が地元地域の自然環境を調査することに意義があると考えている。すなわち、地元地域にこだわった活動を行う当部会は、まさしく地元研究の専門家グループである。5年、10年、100年にわたる長期的で継続した活動を、また、子どもから高齢者まで地域ぐるみで、楽しみながら、のんびりで行える活動を目指している。「地域の人材活用と人

材育成」の場として活動を位置付けており、それは、1) 地域の宝（自然など）を発掘し、2) 地域の宝（人材）を育成し、3) 地域の宝（環境・人・価値）を創ることにつながるかと考えている。

私たち地域住民にとって、私たちの身近にある自然の価値、その素晴らしさ、大切さを知ること、学ぶことが大切である。地域の自然環境は極めて重要で大切な宝物であり、それを活かすのも、失うのも私たち住民しだいである。この大切な地域の宝を地域の未来に残し、次の

世代に引き継いでいくことは私たち地域住民の責任である。与布土地域自治協議会かえるの郷部会は「こうのとりに育む郷づくり」の活動を通じ、地域の自然環境の調査と保全、また、多様な生物が生息する環境の保全及び創出の方法についての検討・実践を今後も継続して行く所存である。

(2014年2月21日受理)

